

読み札	絵札	解説
<p>綾戸をひらいた 江舟和尚</p>		<p>昔、沼田から高崎方面に行くには綾戸が通れないので岩本の十八坂を登り降りした。この道は冬には凍結して危険なので、その苦勞を和らげようと村々をまわり寄付を集め、綾戸にトンネルを掘ったのが坊新田町の金剛院第二十六世江舟和尚であった。弘化3年(1846)たがねと玄能で岩をくりぬいた。その後も整備に日夜努力したが、安政4年(1857)に亡くなった。墓は金剛院にある。</p>
<p>歴史を偲ぶ 沼田城</p>		<p>沼田城は、天文元年(1532)沼田万鬼斎顕泰が3年の年月をかけた築城、鞍打(倉内)城と称した。その後真田昌幸が入城、天正18年(1590)昌幸の嫡子信幸(信之)が城主となり、慶長年間に五層の天守を築城。天和元年(1681)五代城主伊賀守が改易になり、翌年沼田城は破却。その後入封した本多氏が居館を建てたが、明治になりそれも取り壊された。本丸・二の丸跡が現在の沼田公園となり、本丸内に数カ所僅かに石垣が残る。 昭和51年(1976)市指定史跡</p>
<p>町家造りの文化財 生方家</p>		<p>生方家住宅は、東日本において稀に見る古き町家づくりの遺構であり、その様式・技法から17世紀末頃の建築と推定される。町の市街地にあったが、維持管理のために解体し、昭和48年(1973)沼田公園内に移築した。その際文化庁の指導のもと建築当初の原型に復元した。 昭和45年(1970)国指定重要文化財</p>
<p>子持の紅葉 うたによむ 円珠姫</p>		<p>円珠姫は幼名を小柳といい、永禄3年(1560)沼田氏の一族、川田四郎光清の一人娘として川田に生まれた。幼い頃より和歌に親しみ、18歳の時、紅葉に輝く故郷の子持山を見て 「子持山紅葉を分けて入る月は錦に包む鏡なりけり」 を詠じ名を円珠と改めた。厩橋城主滝川一益の和歌の師も務めた。後に、尼になり、故郷の川田に小庵を建て住んだ。下川田町遷流寺に墓がある。 子持山(1296m)は、沼田台地から西南に望み秀麗な山容を持つ。</p>
<p>ちゅうこうは 望郷詩人 おの</p>		<p>おのちゅうこうは明治41年(1908)に現白沢町高平に生まれた。本名は小野忠孝。詩人、童話作家。大正末期から詩作と児童文学をこころざし、河井醉茗に師事、処女詩集「牧歌的風景」を出版。主な著作は「氏神さま」などがある。椎坂峠に、「望郷」の詩碑が建てられた。平成2年(1990)82歳で亡くなった。平成元年(1989)白沢村名誉村民顕彰。 平成17年(2005)に沼田市名誉市民に顕彰された。</p>